



倉二だより

学校だより

9月号

令和6年8月29日

舞鶴市立倉梯第二小学校

どの子ども子どもは星

日焼けし、一回り大きくなった子どもたちが、元気いっぱいの笑顔とともに学校に戻ってきました。

長い休みを活かし、継続して何かに取り組んだり、家族の一員としての役割を果たしたり、家族でゆっくり過ごしたりと、きっとそれぞれに有意義な時間を過ごしたことと思います。その間、子どもたちが大きな怪我もなく安全に過ごすことができたのは、地域の皆様、保護者の皆様の温かい見守りのおかげです。本当にありがとうございました。

さて、今年の夏は毎日のように熱中症アラートが発表され、ひときわ暑さが厳しい毎日でした。その暑さにも負けず劣らず、熱い勝負が展開されたのがパリオリンピック・パラリンピック。体操や柔道、レスリング、バレーボール、新種目のブレイキン等、素晴らしい試合や競技が繰り広げられました。舞鶴出身の選手も出場されており、熱い応援を送っておられたのではないのでしょうか。また、夏の甲子園では、京都府代表として68年ぶりに全国制覇を成し遂げた京都国際高校の見事な活躍もありました。これらの選手のインタビューなどを聞いていると、一人一人が自分の言葉で堂々と話し、周囲への感謝を述べ、自分らしくきらきら輝く姿に感動します。でも、その輝きは、本来、全ての子どもたち一人一人の中にあるものだと思います。

お隣の兵庫県但東町の生まれで明治から昭和にかけて小学校教員として地域の教育に貢献し、「村を育てる学力」の実践で日本のペスタロッチと称された東井 義雄先生がおられます。その先生の次のような詩があります。

「どの子ども子どもは 星」

みんな それぞれの光り方で光っている パチ パチ 目ばちしながら 子どもはそれを見ても
らいたがっている。 無視してはならない 無視が続くと 子どもは 目ばちをやめる 無視が
重なると 子どもは光を消す 目ばちをやめそうにしている星はないか 光を消しかけている星
はないか 光を見てやろう。 そして 天いっぱい 星を 輝かせよう。

2学期は一年で一番長く、運動会など、全校で取り組む行事があります。行事に向けて考えたり話し合ったり、めあてを持って準備や練習をしたりする中で、子どもたちは力を付け、学級としても学年としてもさらにまとまっていきます。その中で、子どもたち一人一人の星が輝けるよう声をかけ、取り組んでいきたいと思ひます。



夏休み中、地域の小中学生共同で描き上げた南公民館の「壁画アート」

引き続き、地域、保護者の皆様のご支援・ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

校長 岡本 恵理子 教職員一同

ホームページにも、子どもたちの日々の活動の様子等を随時配信しています。右のQRコードからぜひご覧ください。

